

認めよう
いろいろな人の
良い所

筑陽学園中学校2年 柳嶋 航至 さん

季節の生け花



太宰府市華道連盟
たまがわ まさこ
玉川 直子 (高雄区)

花材 若松、黒松、梅もどぎ、菊

国際交流・韓国

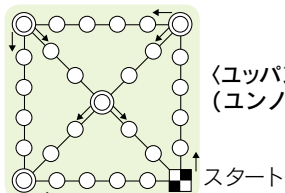
韓国のお正月遊び「ユンノリ」

国際交流員 キムアヨン 金雅英



皆さん、あけましておめでとうございます。
今回は皆さんに、韓国の旧正月にする伝統的な遊びである「윷놀이(ユンノリ/ユンノリ)」をご紹介しますと思います。
「ユンノリ」は、約1500年余り昔の百濟時代から人々の間で楽しまれてきた遊びです。旧正月に町の皆が集まりユンノリをすることで町が一つとなり、町の安寧と豊農を願いました。

遊び方は、いくつかのチームを作り、「ユツ」という木のできたスティック(片方が丸みをおび、片方が平らになったもの)を4つこがして、その裏表の数で駒を動かし勝敗を決めます。何人でも遊べるのが特徴的で、老若男女、だれもが楽しめる遊びです。「ユツ」を買くと、中に印刷された紙のボードと駒が入っています。ボードと駒がなくても、ボードは簡単に描くことができますし、駒は持っている小銭で対応できます。



〈ユツパン〉
(ユンノリのボード)

〈ユツパンの進み方〉

平らな面	呼び方	意味	ルール
1つ	ド	豚	1つ進む
2つ	ゲ	犬	2つ進む
3つ	ゴル	羊	3つ進む
4つ	ユツ	牛	4つ進む
なし	モ	馬	5つ進む

〈ユンノリのルール〉

- 駒はひとチーム3~4つで、早く全部の駒がスタート地点に戻ってくるよう「ユツ」を投げる。
- 「ユツ」と「モ」が出たら同じ人がもう一回投げられる。
- 4つの「ユツ」のうち1つの平らな面に×などの印をつけ、印をつけた面だけが上を向いて出たら、駒を1つ下げる。
- 駒が◎に止まると、次は駒を斜めに進められる。
- 同じところに重なった場合、同じチームの駒なら、次からは一緒に駒を進めるが、別のチームなら、重ねられた駒はスタート地点からやり直し。

このように、「ユツ」をこがした時に出る数の偶然性と駒を動かす時の合理性は、チーム全員が一体となって遊びに夢中になれる、ユンノリの「楽しみの理由」なのではないかと思えます。

つれづれ

太宰府短歌会

秋桜の一万本咲ける苑
はるか向かふの頭は見えず

都府楼 猪俣 泰夫

異なるもの消えさるまでは鳴りてゐむ
バツハのプランテンブルク協奏曲

東觀世 大久保富土子

雨にぬるる野牡丹に友をしのびつつ
帰ればポストに喪中の葉書

通古賀 金丸 チスカ

道の辺に万葉歌碑ありウオーキングの
足をとめ今日も寄り道をする

三条台 木下 利孝

大銀杏の落しきりたるぎんなんが
黄金色なり立冬の朝

榎寺 黒木 邦枝

太宰府句会

茶の花にふれては円かなる心

青山 柴田慧美子

茶の花や老いて静かな暮らしぶり

筑紫野市 花田 壽江

祝米寿里の新米届きけり

青葉台 武富マサノ

家の美は心も美なり冬椿

国分 八尋 淨子

茶の花の垣根低くても静か

三条 萩尾 淑子

飛梅句会

水音の中の雨音谷紅葉

長浦台 徳賀 美智子

せせらぎの岸辺にひそと冬母

馬場 野上 コト子

宝満山の肩にかかりし時雨雲

觀世音寺 野田 杉子

稲荷社の礎に散り敷く紅葉かな

三条 松垣 哲哉

眺望の宰府の街や冬紅葉

大野城市 福岡 とみ子

宝満句会

木の葉散る五百羅漢の像に散る

筑紫野市 原野 周二

初霜や年を重ねて早や傘寿

青葉台 平野 香

木の葉降る川に向きたるベンチ白

石坂 門谷 とも

足音と思ひ振り向く木の葉雨

青葉台 本山 晴子

初霜の朝に心身引き締まる

福岡市 工藤 友子

都久志てんじん句会

夕紅葉白亜の老人ホームかな

湯の谷西 矢野 杏子

客を待つポニーの瞳秋深し

福岡市 塩飽たか子

小春日や天声人語書き写す

青葉台 彦坂 正孚

秋天を切り取る路地の行き止まり

福岡市 宮津英里子

日脚のぶ暮れゆく空も色変り

五条西 安村 俊一

太宰府川柳倶楽部

きつと来る運を信じてもう傘寿

松川 山根 清

喜怒哀楽いっぱいくれた娘の門出

国分 岸本 しずえ

餅一つ胃にもたれるや三ヶ日

觀世音寺 松浦 ちえ

幸せな過去はまぼろし巻戻す

筑紫野市 田島 ムツ子

六つの花妖精達が舞い踊る

春日市 大塚 茂